

## 立山山麓家族旅行村ミズバショウ自生地保全整備活動

NPO 法人 富山県自然保護協会

富山県



### 1 活動の目的及び内容（概要）

＜報告に先立って一発見と今後＞

#### （1）自生地発見と保全整備活動について

平成21年3月、この地「立山山麓家族旅行村」が、森林セラピー基地と認定された。当時、この杉林の中にセラピーロードとして遊歩道が敷設された際に、道路わきにミズバショウ自生地の広がり確認され案内板も設置された。しかし、杉林内には、この道路わきだけでなく他にも多くのミズバショウが低木・雑木に覆われて隠れていることは知られておらず、当協会は株の広がりと共に周辺動植物の観察調査をつづけてきた。

その結果、湿原特有の植生や林内の沼に生息する貴重な水生動物などが確認された。また、ミズバショウの自生を促している林内の水路・水脈が網目のように広がっていることが確認された。一方、ヨシが年々湿原に侵入したりミズバショウを覆っている樹木の成長が進んだりしていることも明らかになってきた。このまま放置しておけば樹木の水の吸い上げやヨシの繁茂により、自生地は乾燥化と荒地化へ向かうという危惧が浮かび上がった。実際、長年の放置のため既に湿原は一部乾燥化し荒地地に向かっており、上記の貴重な動植物は損なわれつつある。

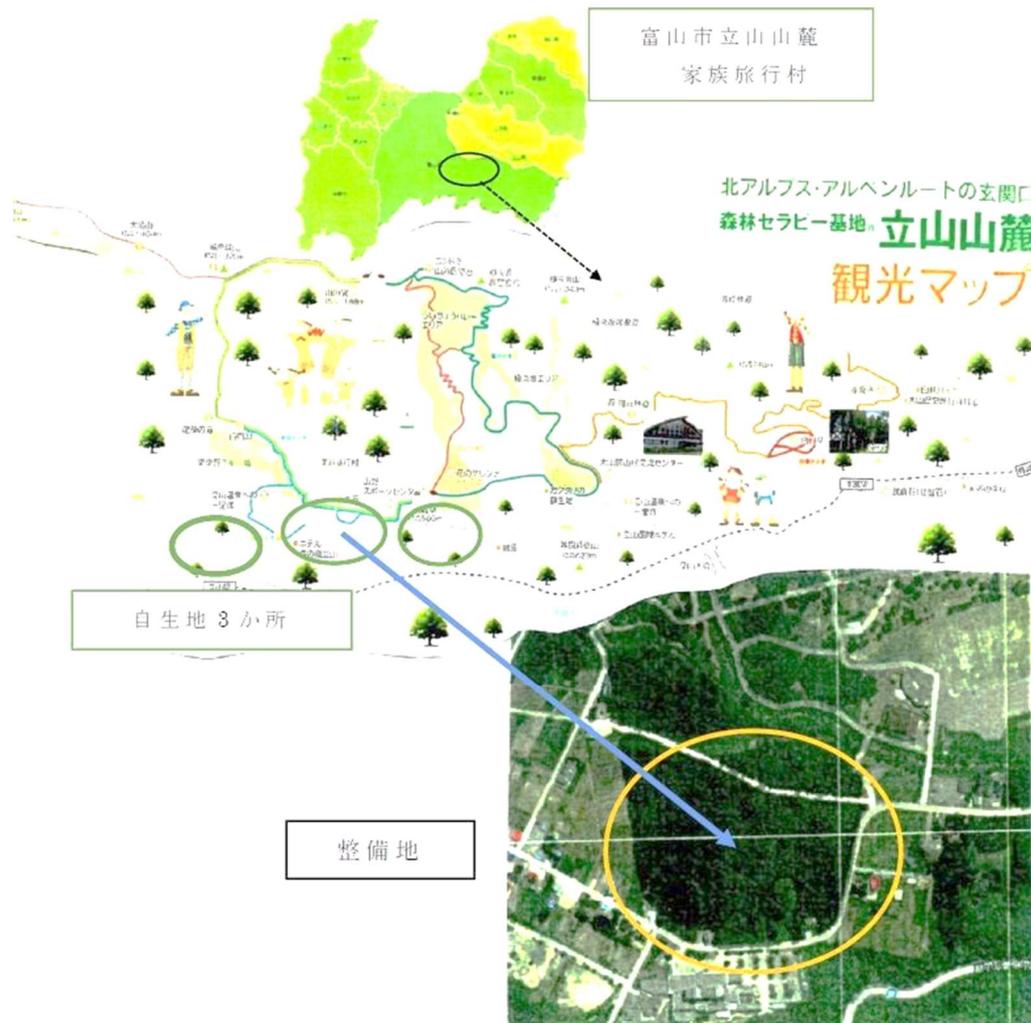
そこで雑木の刈り払いや水流の整備などを通して乾燥化を防止する。また適度な太陽光が導入されることにより、ミズバショウや湿生植物、また沼地に住む生物などの生育環境を守るなど、湿原を保全整備しながら身近にある美しい自然を地域の方々と共に多くの人々の手で未来へ引き継いでいきたい。さらに、観察会や親子観察会、調査活動を組み込んだ「自然と親しむ森」として、地域の方々と共に保全整備を行いながら、自然保護意識の普及啓発、加えて地域の活性化を目指したい。

#### （2）今後の取り組み

- ① 雑木の下の自生地の広がりを明らかにする。刈り払いによる自生地の広がりや生育状況の継続観察・調査

- ② 水路の拡がり、現地の土地の起伏状況を地形図に表し、整備
- ③ 現地の植物に関しては、湿原性のものなど見られることから植生調査
- ④ 池や沼には、モリアオガエルや昆虫などの水生生物の存在も予想され、水生生物調査の必要性
- ⑤ 管理は、3名の地主が関わっている。1名 Y氏は森の手入れを続けておられ、活動にも共に参加。他の2氏はご主人をなくされ残された家族は、所有土地の場所・境界線・状況などよく分からないという。しかし、「皆さんのお役に立つのであれば利用してください。」との言葉をいただいている。共に連絡し合いながら進めていく。
- ⑥ この地は、「立山山麓家族旅行村」、北陸随一のスキー場内、森林セラピー基地などの観光地である。周辺のウォーキングコースや滝・巨木・美しい自然を抱き込んで、自然観察や新たなトレッキングコースを生み出していく。
- ⑦ 地域住民は協力的であるが、山菜採りやハイキング客が無遠慮に敷地内や畑に入り込むマナーの悪さに困惑している。そこで、自然観察へのマナー手引書を作成し案内の際にはこれらについても指導啓発していく。

(3) 現地マップ



## 2 実績報告

(1) 事業名 立山山麓家族旅行村ミズバショウ自生地保全整備活動

(2) 事業の趣旨

・ 富山県、県定公園「立山山麓家族旅行村」内の杉林の林床には、長い間雑木に覆われていたためその存在が知られていないミズバショウ自生地がある。このままでは、湿原は乾燥化し荒れ地に向かう。当協会では数年前からこの地を保全しようと地域住民と共に刈り払いによる整備活動を行ってきた。保全によりさらなるミズバショウの広がりが見られたり、想定外の自生地の点在が確認されたりしている。同時に行っている森林内の植生や生き物の調査では湿原特有の動植物が発見され、引き続き調査が必要である。本応募活動は、上記の整備活動に一般の方や地元の方、また子供たち・親子と多くの人々を巻き込んで活動に参加・体験をしてもらうものである。

また、周辺の名勝地である、滑床「百間滑」、滝「龍神の滝」などヘトレッキング（ハイキング）コースを作り、自然に親しむ自然観察のエリアにしていく。この地は、立山山麓セラピー基地でもある。美しい自然環境に身を置きながら自然保護活動を身をもって体験する経験を通して、森林の役割や自然保護の大切さを理解すると共に、仲間と共に森を歩く中で、心と体を鍛えることの楽しさを味わわせたい。さらに、自然保護意識の高揚を図りたい。

- ・ ミズバショウ自生地を覆う雑木の継続刈り払いと保全活動
- ・ 現地及び周辺地域の自然観察会の開催と、自然保護意識の高揚
- ・ 観光客誘致と地域の活性化

◎ 実施場所 立山山麓家族旅行村 周辺地

(3) 実施期間 令和2年4月1日 ～ 令和3年5月31日

(4) 実施場所 930-1452 富山県富山市原 立山山麓家族旅行村林内

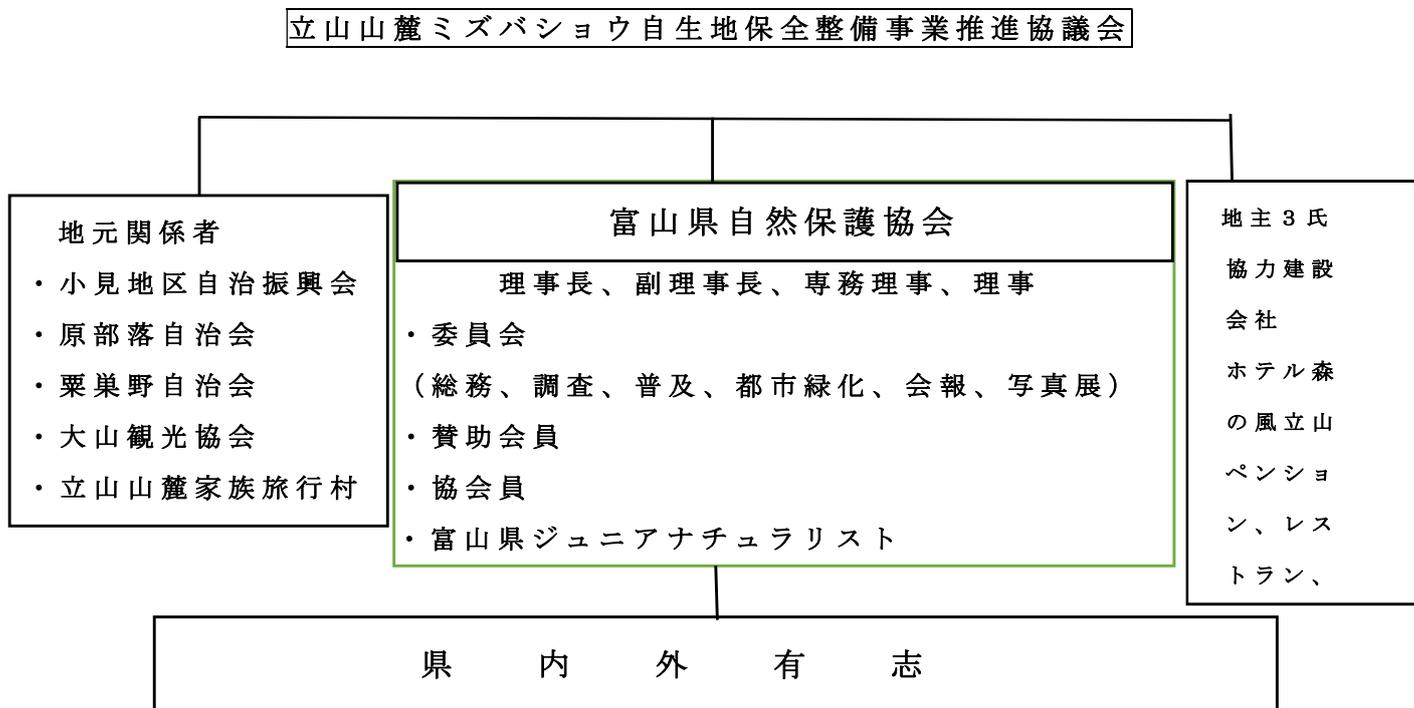
(5) 事業開催に当たっての全体的な動き（実績）

時期	内 容
6月 1日	関係機関連絡、届け出（家族旅行村事務所、地主及び地元集落 6カ所） 及び湿原状況調査 スタッフ 1名 事務局 1名
6月 2日	企画委員会（日時、日程、スタッフ配置、予算、事前連絡箇所など検討） スタッフ 5名 事務補助 1名 事務局 3名
6月 3日	・パンフレット印刷 350部 ・現地調査 濱田啓二他調査委員3名にて湿原内水流、植生・足跡など調査
6月 5日	観察会コースなど確認 ・コロナ対策として集合場所などの広さ確認

	・ 刈り払い場所・状況確認	スタッフ 2 名	事務局 2 名
6月 7日	第1回スタッフ会議 ・ 下見での問題点、日程、作業場所、役割分担、コロナ対策 講師・現地解説者など選定 ・ 講師依頼・現地解説依頼発送	スタッフ 5 名	事務補助 1 名 事務局 3 名
6月 10日	資料 手作り冊子製本及びとじ込み50部 ボランティア 6 名・製本(ボランティア4名)		
6月 14日	現地調査と午後親子観察会	9:30~14:00	参加者 37 名 講師 (浜田)
6月 26日	現地調査 池沼生物とアケボノシュスラン開花調査 及び次回(7/12)親子観察会下見	調査員 5 名	講師 (浜田)
7月 1日	現地調査・測量及び植生調査	太田建設	スタッフ 7 名 講師 (川端)
7月 4日	現地下見・測量及び植生調査	スタッフ 2 名	ボランティア 3 名 事務局 2 名
7月 6日	スタッフ会議 参加者確認、用具確認と運搬方法検討、役割分担確認など ボランティア 5 名	事務補助 1 名	事務局 3 名
7月 12日	親子観察会 参加家族へ日程等連絡(封書)	9:30~12:00	参加者 20 名 講師 (平野・草野)
8月 23日	現地調査	スタッフ 12 名	参加者 事務局 1 講師 (川端)
9月 5日	現地調査 アケボノシュスラン・ミズオトギリなど確認	調査委員 15 名	講師 (江本)
9月 10日	保全整備活動	13 名	
10月 7日	スタッフ会議 参加者確認 資料整備		
10月 8日	保全整備活動	15 名	
10月 11日	親子観察会	9:30~12:00	スタッフ 12 名 参加者 32 名 講師 (平野・宮原)
10月 17日	スタッフ確認と資料準備		ボランティア 2 名・事務局
10月 18日	保全整備活動 水路周辺刈り払い・カントリーヘッジ	地主挨拶	参加者 14 名 講師 (江本)
11月 30日	現地調査	調査委員会 5 名	講師 (江本)
2月 6日	活動報告会	35 名参加	講師 (清水)
4月 11/12	現地調査	2 名/2 名参加	雪解け直後の状況及び開花状況調査
4月 16日	現地調査	次回保全活動下見	調査委員会 6 名参加
4月 24日	保全活動	22 名参加	(コロナ禍、内部関係者で実施)
6月 26日	参考(保全活動)	4 年生~中学生 50 名+スタッフ 15 名参加)	

### 3 ミズバシヨウ自生地保全整備体制

#### (1) 関係者構造図



#### (2) 地元関係者について

##### ①地主

3名の地主が関わっている。

A氏 常時、林の管理をしており、これまでの刈り払い活動には時折参加され、地主として利用してもらえることに喜びと語られる。長いこと見守ってくださったが、5月に突然病気にて、亡くなられた。以後息子さんと連絡を取っている

B氏 主に、湿地の中心地（入口）の持ち主であり、これまで見に来たこともなかったが、手入れによる変化を見守ってくださっている。

C氏 開始当初は、お元気であった。しかし、現在、ディホーム入所。場所も何年も見ていないが、皆さんのお役に立つのであれば使ってよいとの言。

##### ②自治振興会

全面的に応援をいただき、連携して進めているが、今のところ、本協会が主導である。

##### ③大山観光協会・立山山麓家族旅行村

連絡を取りながら進めている。今のところは自由には入れない状況だが、遊歩道など整備されていけば、上記協会などの観光コースや、ガイドコースになる予定である。

##### ④周辺の宿泊施設 ホテル森の風立山一駐車場やトイレの使用、荒天の避難場所など全面的に協力をいただいている。宿泊施設・レストラン ー 時折参加され進展を温かく見守っている。

#### 4 今回の実施内容と状況

##### (1) 地主・関係者連絡会 6/5 10/18 4/9

当協会理事長・担当者などで計4回、状況報告や土地使用許可の連携をとりながら進めた。

<日> <内容>

- ① 6/1 家族旅行村事務所、地主 Y 氏・地主 T 氏、原集落総代  
ホテル森の風立山、大山観光協会へ挨拶と今年度の活動予定打ち合わせ
- ② 6/5 ホテル森の風立山へ駐車場使用・トイレ使用依頼
- ③ 10/18 地主 Y 氏へ進捗状況や今後の取り組みについて報告土地利用について相談同時に保全整備
- ④ 4/9 地主 Y 氏へ今後の整備計画（遊歩道・柵設置など）打合せ

##### (2) 現地調査と経過観察、下見

6/3 6/5 6/26 7/1 7/4 9/5 令和 3/4/11 4/16

<日> <内容>

- ① 6/3 現地調査 湿原内水流調査
  - ・この湿原は、流れ込む川というより湧水が小川を作りどこからともなく流れができ、どこかへ消えていくという川筋であることが確認された。2本の小さな流れだけが林内を貫いて流れている。
  - ・マンネンスギ トオゲシバ ショウジョウバカマ  
フウリンウメモドキなど確認
  - ・イノシシ踏み荒らし足跡 ミズバショウ株元掘り起こし
- ② 6/5 観察会コース、コロナ禍での集合場所・トイレ等確認
  - ・6月14日（日）開催の「保全整備活動と親子観察会」についての現地下見会を行う。特に、コロナ対策を念頭に置いて観察した。
- ③ 6/26 現地調査

・アケボノシュスラン



・イノシシ糞確認 ・モリアオガエル卵塊確認



④ 7/1、4 現地植生調査・測量

- ・ 大田建設により、現地の広さ、形状など測量→略図作成 以下(D)
- ・ オオバクロモジ タニウツギ タラ ユキツバキ その他

⑤ 9/5 現地調査 < 写真など 以下に掲載 A >

- ・ 調査委員会観察会による周辺地域の自然環境調査

⑥ 4/11、12 現地調査

- ・ 雪解け直後の状況調査 ドローンによる撮影試み
- ・ ミズバショウ開花初め、ショウジョウバカマ開花、最盛期で美しい
- ・ イノシシ被害が深刻、株が半減している場所も見られる

⑦ 4/16 次回(4/24) 保全活動現地下見 調査委員会 6名参加

- ・ 刈り払い地点下見、作業内容確認
- ・ 観察会コース確認、駐車場・トイレ交渉など
- ・ カタクリ満開

(3) 保全整備活動、親子観察会 6/14 7/12 8/23 10/11 10/18 4/24

① 6/14 保全整備活動と 午後、親子観察会

- ・ 参加者 37名 (午前・午後)
- ・ 午前 水路に沿って両側を刈り進め、刈り払い枝はヘッジとして並べる
- ・ 午後 周辺の滑床・滝・巨木などをナチュラリストの解説を聞いて巡る

② 7/12 親子観察会 < 写真など 以下に掲載 B >

- ・ 参加者 20名 (午前)
- ・ 整備後の状況観察の後に立山山麓家族旅行村内を観察する

③ 8/23 保全整備活動 スタッフ 12名でヘッジ補強

④ 10/11 親子観察会

- ・ 参加者 32名 立山山麓トレッキング

⑤ 10/18 保全整備活動

- ・ 参加者 14名 落枝落葉片付け

⑦ 令和3年4/24 保全整備活動と観察会

- ・ 水脈に沿った刈り払いと刈り取った枝でのカントリーヘッジ
- ・ 自生地全体像の把握
- ・ 立山山麓家族旅行村内自然観察会

< 写真など 以下に掲載 C >

(4) その他 スタッフ会議、資料作成、案内パンフレット作製配布など

## 5 現地紹介

A

## 林内の様子

- ・湿地特有の植物も見られる ミズオトギリソウ アケボノシュスラン コシロネ
- ・イノシシの侵入は年間を通してみられる。早春はミズバショウの根元の食餌の様子があり、株数が減っている。
- ・林内は数カ所の池があり、アカハライモリなど生息。水生生物の調査継続
- ・その他 ドローンによる調査、カントリーヘッジ、今後の整備予定雑木など



B

↓親子へ刈り払いについての安全指導  
遊歩道上の整備 →  
森の大切さについて話を聞く



保全の必要、刈り払いの方法、  
森の大切さを学んでいざ作業



百間滑・龍神の滝へトレッキ



現在は、刈り払いと同時に林内の仮歩道を整備中である。今は雪解け直後であるため表土は開けているが、この後草木が生い茂り引き続き整備は欠かせない。



ミズバショウがいたるところに生えているためそれらを保護する回り道とヘッジを現地にある材料で整備した。

## D

### 現地略図作成までの経過

① 当初林内は暗く鬱蒼とした茂みで、中の様子が分からず、踏み込む通路もないという状況だった。ミズバショウの繁殖状況を調査するにも、雑木を踏み分けながら発見していく状況だった。

また、幾筋もある水路の状況を見極める必要もあった。

② 1年目 初めに、セラピーロードに沿って広がっている湿地（下図赤色地区）のミズバショウを覆う雑木や杉、小低木・ヨシなどを取り除いた。除去に伴ってそれに隣接する周辺の様子が明らかになってくるに連れ、想定外の自生地の広がりが推測された。

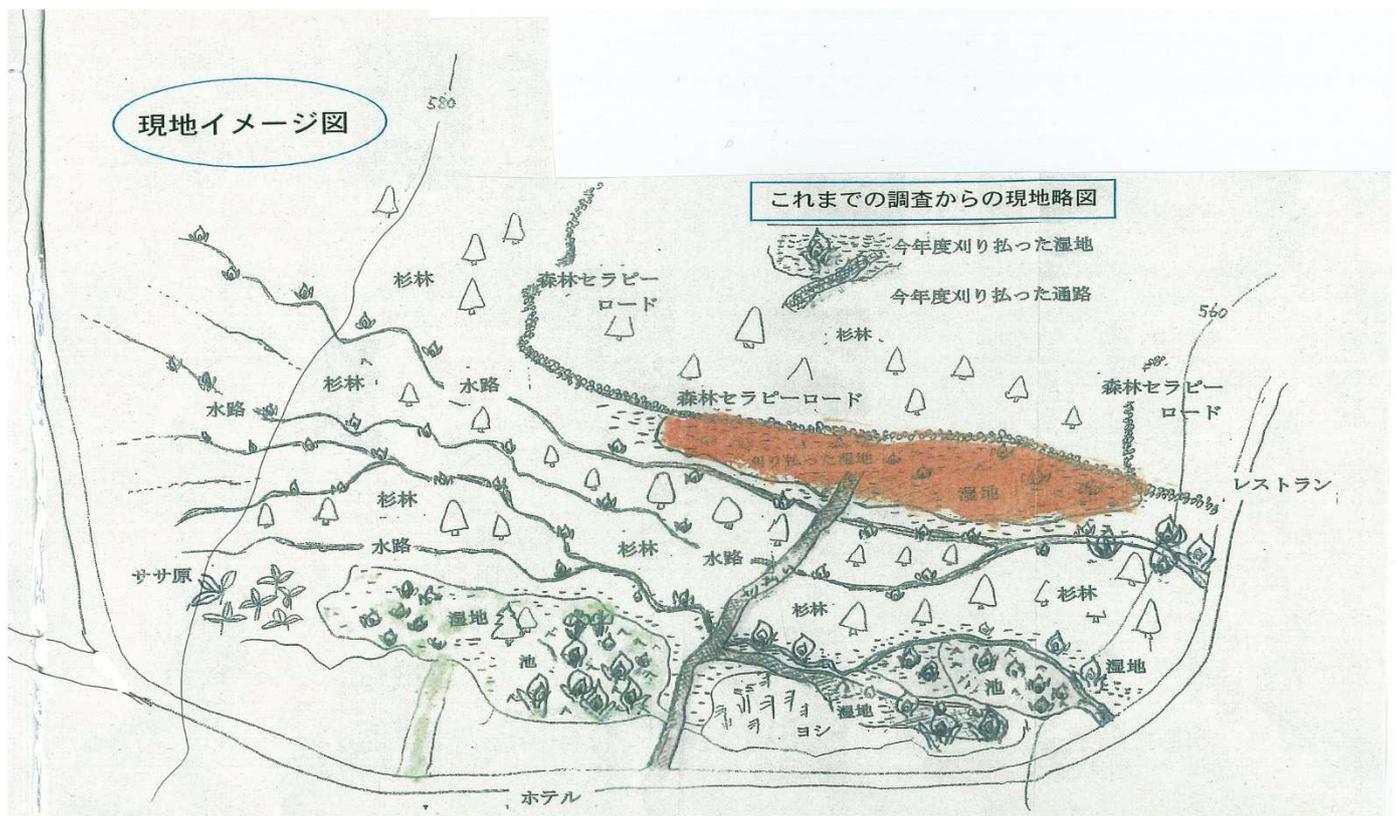
2年目 中央に東西に貫通する通路を刈り払い、ミズバショウの自生状況の広がりが一気に明らかになってきた。そこから南北へ通路を広げ、水路の伸長状況、湿地・池の存在が明らかになってきた。湿地や水路の周りの刈り払いにより、ミズバショウの繁殖は一気に旺盛になった。

3年目 水は林内の途中から湧き出し、水路を形成しながら末端で湿原や池を作りまたどこかへ消えていくパターンが多い。湿地特有の植物やモリアオガエルなどが数種類確認される。刈り払いが進むにつれ、ミズバショウは、周辺へ広がりを見せ、開花期は見事である。

4年目 今年度、早春の雪解け時、異変が起こっていた。イノシシがミズバショウ湿地でぬた場を作り、根を掘り返しおよそ100株損壊を受けた

親子観察会や健康ウオークの会場としての利用も進んでいる。

また、太田建設による簡易測量により、下記的水路やミズバショウの自生地の広がりなどの略図を作成することができた。



## 6 成果と今後

コロナ禍の閉塞感がある中で、家での閉じこもりから解放されることを願っていたためか、参加者の自然へ出かけようとする需要は多かった。

また、本協会スタッフも、自然へ関わるのが大好きというナチュラルリスト有資格者がほとんどであり、事業は多くの人の協力が得られた。

### ① ミズバショウの拡がりについて

- ほとんど雑木に覆われていた広がりには、大きな湿原と池を中心に、他にも、約2ヘクタールの林内のあちこちに散在していることが分かった。刈り払うことにより、陽光を得やすくなって、さらに周辺へ大変な勢いで広がりを見せている。開花期は年々見ごたえのある光景になっている。しかし、イノシシの侵入により被害を受けており、侵入防止対策として雪融け前のミズバショウの芽の状態時に周辺の刈り払い枝を引き詰めるなど、こうじたい。

### ② 水路の拡がり、土地の起伏関係のまとめ

- 水路や湿地の大まかな様子を略図にまとめることができたが未だ不十分である。今後、詳細な分布や土地状況は継続して明らかにしていきたい。

### ③ 保全活動と観察会、親子参加活動の同時開催について

- 整備活動と周辺景勝地へのトレッキングを重ねて行う形式を多く行った。その結果、親子での参加者が増え、結果的に活動の目的の理解が進んだ。森へ入って刈り払うこと自体の経験は楽しさと共に、整備跡を振り返っての満足感を味わっている様子が見られた。さらに、今後、トレッキングのコースを増やしたり、ロングコースを開発したりして、内容の充実とより多くの方々を自然の中に誘い出すきっかけにしたい。

### ④ 調査活動

- 森は植林や人手の入った2次林であるので、土壌は動かされている。植生は古いものの継続は損なわれていると思われる。約50年前に整備されており、その後、地主の林内整備が時折なされてきたというのが現在までの状況である。しかし、湿生特有のアケボノシュスランやミズオトギリ、また、池にはモリアオガエル、アカハライモリ、クロサンショウウオなどが現在確認されている。以下周辺の植物などの状況

		
アケボノシュスラン	トウゲシバ	ザゼンソウ

		
コシノコバイモ	イワガラミ	ツノハシバミ
		
オオナルコユリ	キショウブ	ササユリ
		
ヤマアジサイ	キクザキイチゲ	マルバフユイチゴ
		
タニウツギ	オトコエシ	コシノコバイモ
		
コシノコバイモ	ノリウツギ	イワウチワ
		
キクザキイチゲ	タチツボスミレ	カタクリ

		
モリアオガエル卵塊	ニホンカモシカ	ニホンザル
		
親子観察会では、毎回十数ページ程度の小冊子の資料を配布し、本日の日程、整備の必要性、周辺の見どころを掲載し喜ばれた。	林内の中央に、立山山麓セラピー基地のセラピーロードが通っている。ここで、最初に発見された。	カントリーヘッジ刈り払った雑木の枝は周辺の通路の仕切りとして積み上げた。やがて小動物の住処になる。

#### ⑤ 今後の取り組み

- ・ 林内はようやく隠れていたミズバショウの様子や水路の状態、また起伏がかなり明らかになってきた。今後は新たな刈り払い地の拡大と共に、伸びてくる草木の刈り払いと手入れで年数回の活動は継続していかなければならない。現在は、協会の案内や観察会の際にのみ入れることになっている。一般の方々への開放までには、歩道の整備→通路の確定とチップ敷き、案内板の設置、駐車場の確保を行う。また、関係機関とのさらなる連携が必要である。
- ・ 観察会コースは、ミズバショウ自生地を中心にして百間滑滝や龍神の滝、さらに立山杉の巨木観察、立山山麓家族旅行村内と結んだ多くのコースが考案された。これらを活用し、整備活動と親子観察会を通して自然に親しみながら自然保護意識の啓発に努めていきたい。
- ・ 調査に関しては、さらに動植物について、またこの活動におけるミズバショウ自生地や林内の変化、それらをまとめた研究物など、提示していきたい。

#### 7 終わりに

公益信託タカラ・ハーモニスト及び受託者みずほ銀行株式会社様のこの度の助成金給付に対して、多く参加・協力があり、かかわった皆さんがそれぞれの立場で、楽しみました。心からお礼申し上げます。（次ページ 本協会の概要）

名称 NPO 法人富山県自然保護協会（特定非営利活動法人）

目的 県民に対して自然教室の開催や環境調査などに関する事業を行い、自然と環境の保護に寄与することを目的とする。

事業 自然教室・自然観察会の開催 自然解説の実施  
環境調査・研究 保全整備活動 写真展の開催 情報誌の発行  
自然解説員（ナチュラリスト・ジュニアナチュラリスト）養成講座開設

連絡先 TEL 076-441-0099 E-mail tkshizen@yahoo.ne.jp



KNB入船別館(入居事務所)



令和 2 年度ナチュラリスト養



標高 2,000m 地点  
弥陀ヶ原にて外来植  
物除去活動



標高 2,300m 天狗平における

#### その他

- ・ 立山黒部ジオパーク協会との連携協定を結ぶ 令和 2 年
- ・ 高山帯及び水無湿原など、外来植物調査と除去活動を十数年継続実施
- ・ 県内外をエリアにして、自然観察会の実施
- ・ 県内外へ年 4 回協会報発行 ～296 号
- ・ 美しい自然を題材にした写真展 年 7 回、各地巡回している
- ・ 富岩運河水生生物調査、ミズバショウ自生地保全整備活動、都市公園利用状況視察など